

令和4年度 学校経営基本方針

令和の日本型学校教育を目指して

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新しい時代を生き抜く
力を身に付ける

主体的・対話的で
深い学び

他を尊重し、
多様な人との協働

子供たちが「行きたい学校」
保護者・地域が「行かせたい学校」
教員が「働きたい学校」

従来の日本型学校教育

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止のために取られた臨時休業措置により再認識された学校の役割
- ①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障(安全・安心につながるができる居場所・セーフティネット)

現在、直面する児童の課題

- 将来への不安からの学習意欲の低下
 - 人との関わりの希薄化
 - 低い自己肯定感と命の軽視
- 多様化による特別支援・外国籍児童・貧困・いじめ・不登校の増加等
 - 経済格差と学力格差
- 二次元の世界と実体験の希薄さ

現在、直面する学校の課題

- 地域社会の希薄化や家庭の教育力の弱体化による学校及び教師の負担増
- 子供の多様化(特別支援・外国人児童・貧困・いじめ・不登校への対応)
 - 教員採用倍率の低下と教師不足
- GIGA スクール構想前倒しで情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持と質の保証
 - コロナ禍の感染防止策と学校教育活動の両立
 - 今後起こり得る新たな感染症への備え

これらの新たな課題の解決を視野に入れながら、一の谷小における新しい「令和の日本型学校教育」の実現を目指す。

学校教育目標

教師一人一人が豊かな人権感覚に根ざした指導を行うとともに、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成を目指し、本校教育目標実現のため、充実した教育活動を展開する。

1. よく聞いてよく考える
 - 学習の基礎・基本を学び、ものごとを関連付けて考える子（小中一貫）
 - 自ら課題を見つけ、意見交換等を通して考え、判断し、解決しようとする子
 - よく考え、行動する子
2. やさしい心をもつ
 - 友達を思いやり、互いに協力できる子（小中一貫）
 - 友達とのコミュニケーションを図り、自己実現できる子（小中一貫）
 - 人間や自然の尊さ、美しさを感じることができる子
3. 最後までがんばりぬく
 - 健康に気をつける子
 - めあてをもって体を鍛える子（小中一貫）

学校教育目標の実現に向けて

R 4 経営スローガン

- ① 「行きたい・行かせたい・働きたい」学校の実現
- ② 家庭・地域への発信・交流
- ③ 未来を視点としたグローバル（グローバル&ローカル）教育の実践

1. よく聞いてよく考える（重点目標）

- ◇ 学力向上を図る
 - 児童一人一人の個性・能力に応じた指導を工夫する観点から
 - ◇ 個別最適な学び
 - ・ 子供に寄り添ったきめ細やかな指導
 - ・ スモールステップ指導と特別支援体制の強化
 - ◇ 協働的な学び
 - ・ 課題を見つけ、対話交流し、解決する力
 - ・ 読書指導の充実
 - ・ 地域の教育力の活用

2. やさしい心をもつ

- ◇ 心の教育の充実を図る
 - ・ 「特別の教科道徳」の指導の充実
 - ・ 人や自然との関わり
- ◇ いじめ・不登校ゼロを目指す
 - ・ 多様性
 - ・ 居場所づくり
 - ・ 関係機関との連携支援体制
- ◇ 伝統・文化に親しみ、ふるさとを大切にすることを育む指導を行う
 - ・ 地域との連携
 - ・ 人との関わり合い

3. 最後までがんばりぬく

- ◇ 体力向上を図る
 - ・ 健康維持
 - ・ 実践する力
 - ・ 目標を目指し取り組む意欲
 - ・ 運動技能や運動能力
- ◇ キャリア教育の推進
 - ・ 多様な人材との触れ合いで夢もつ機会
 - ・ 「何のために学ぶのか」学びに向かう力

具体的な取組

- ◎ チーム学校という組織体として対応する
 - (1) 分掌の明確化と適材適所の配置
 - (2) 報告・連絡・相談の徹底・体制づくり
- ◎ 専門職としての誇りと自覚を持ち、常に研修に励む
 - (1) 学習指導要領の完全実施に向けて取組
 - ① 主体的（アクティブラーニング）対話的（話し合い活動の充実）で、深い学び（振り返りの時間確保）
 - ② 英語科（5・6学年）、外国語活動（3・4年生）を通して、英語力の基礎を養う。
 - ③ 特別の教科 道徳の充実（特に、いじめ防止・情報モラルの段階に応じた指導）
 - ④ GIGAスクール構想に基づく授業改善（プログラミング教育 他）

- (2) 子供たちが主体的に価値判断できる力を養うとともに豊かな人間性を育む
 - ① スクールカウンセラー等関係諸機関との連携を図る
 - ② あきる野学園との交流活動を行う
 - ③ あいさつを交わす習慣を身に付ける
 - ④ 「特別の教科道徳」の授業における考えを深める活動や場の設定
 - ⑤ 美しさを感じとる豊かな感性を磨き創造する喜びや探求する楽しさを味わわせる
 - ⑥ 伝統・文化教育の一層の充実を図る
 - ⑦ 縦割り班活動を軸に協力して活動する力を養う
- (3) 生活指導の充実を図る
 - ① 集団生活の規律やルールを身に付け、規範意識を育てる
 - ② いじめ、不登校「0」を目指し、組織的な対応で早期発見・早期解決に努める
 - ③ 全校朝会や児童集会時の集合・整列など、自ら考えて行動する力と集団行動への意識の向上
 - ④ 授業規律を軸に、話を聞き、他を受けとめる姿勢を身に付ける
 - ⑤ SNSにおけるルールやマナーについて指導を徹底し、適切な活用方法について理解させる
 - ⑥ SOSの出し方に関する教育を位置付ける
- (4) オリンピック・パラリンピック教育及びキャリア教育の充実
 - ① オリ・パラアワード校として、SDGs等、世界に向けたグローバルな視野をもたせる
 - ② なりたい自分、将来の夢など目標をもって努力できる児童を育成する
- (5) 体力の一層の向上をめざす
 - ① ぐんぐん・すくすく大作戦の充実（握力・持久力の向上）
 - ② 縄跳び週間やマラソン週間等、計画的な取り組み
 - ③ 他との比較ではなく、自身の高まりや成長に目を向けた継続的な取り組み
 - ④ 運動の日常化につなげる場の設定
- (6) 小中一貫教育を推進する
- (7) 地域との連携を深め、保護者・地域に信頼される教育課程を実施する
- (8) 自然環境への関心を高める
 - ① 米作りの実施及び全学年が畑作を体験する等
 - ② ビオトープ、「ほたるの里」等、自然環境を生かした教育の推進
- (9) 家庭・地域社会との連携を図る
 - ① 積極的に情報を発信し、子供の姿を通して家庭や地域の信頼を得る
 - ② 学校評議員会を年3回実施するとともに、学校評議員や保護者対象の外部評価を行い、地域や保護者の考えや期待を受けとめ、開かれた学校づくりを推進する
 - ③ 保護者の声に真摯に耳を傾け、適切に対応する（特別支援・SC等）
 - ④ PTA活動や青少年健全育成委員会の活動等に参加し、学校・保護者・地域との連携を深める
- (10) 服務規律を遵守する（服務研修の実施・意識向上・声掛け等）
- (11) 「働きたい学校」を目指して、働き方改革の視点から、業務改善を図る
 - ① 校務支援システム等ICTを活用して情報や教材の共有を図る
 - ② 個々の経験や技能を活かしたミニ研修会で教職員全体のボトムアップを図る
 - ③ コミュニケーションの場を設定し、協働できる職員集団づくりを推進する
 - ④ 地域行事への教職員の参加日数及び参加時数について配慮する